

■（４）新聞だって繰り返す「検算」！

インターネット時代では、宿題の回答をネット検索で探す小中学生もいるらしい。が、ネット上には怪しげな情報もはんらん。書き込みの真偽はなかなか確かめられない。

この情報の「裏をとる（＝確認する）」が新聞の生命線だ。もしも、記事になるような情報をつかんだら、記者は事実を知りうる立場の人に会って確かめる。さらに、文書など動かぬ証拠を手に入れようとかけずり回る。そんな確認作業は、時には何カ月も続く。

３年前に相次いだ食品偽装問題の発端となった牛肉コロッケの偽装事件。私らは、「中身は豚や鶏だけ」という不正を確かめるため、問題コロッケをDNA鑑定し、その結果から特ダネを書いた。今回の検事による証拠改ざん事件で、同僚記者らが疑惑を察知したのは７月。記者らは問題の証拠品のフロッピーディスクを専門業者に鑑定してもらい、改ざんの跡をつかんだ。算数の試験で言えば、「検算」を繰り返したうえで、９月２１日に掲載した特報記事は、今年度の新聞協会賞を受賞した。国内報道界の「ノーベル賞」だ。

自らの学校時代を振り返れば…。あー、「検算」の大切さをいまの子供らに伝えたい（山）